

「考える力」の育成

「読むことの指導に重点をおいて」

徳島県立徳島北高等学校 教諭 宮武絢子

1 本校の概要

徳島北高校は吉野川北岸に位置し、一学年二七七人、二学年三二三人、三学年三一二人から成る開校二十四年の学校です。本校には普通科と県内唯一の国際英語科が設置されており、「清新はつらつ」という自主・創造・友愛に基づいた校風のもと、勉学・部活動に励んでいます。

本校の特色は三つあります。一つ目は、国際教育と英語教育に力を入れている点です。国際英語科の生徒を対象としたオーストラリア語学研修、普通科の生徒を対象としたニュージールランド語学研修、また留学生の受け入れやイングリッシュデーの開催など、国際交流を通してグローバルな人材を育成する活動を行っています。

二つ目は、人権教育に関する活動です。新入生を対象にした「人間関係づくりワークショップ」の実施、人権演劇の鑑賞、ハンセン病療養所である大島青松園への訪問など、生徒・教員一人一人が人権意識の高揚を図ることができるよう取り組んでいます。

三つ目は読書活動に関する取組です。ビブリオバトルやクラスでの読書会を開催したり、図書課と国語科が連携して、「徳島県新聞感想文コンクール」に一、二年生全員で応募したりするなど、生徒たちが読書習慣を身につけ、読書に親しむことができるような活動を行っています。

以上のように、本校は生徒自身が実際に体験を通して学ぶことに重点を置いています。主体的に学ぶことを通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばすことができます。ように取り組んでいます。

2 研究動機

私は本校に赴任して六年目になります。最近国語を教えていて思うのは、「文章を読んで考える」ことが苦手な生徒が多くなっているということです。例えば、登場人物の心情や筆者の意見など、明確に答えが一つに決まらない問いを考える活動を行う時に生徒が消極的になるような気がしています。じつくりと腰を落ち着けて文章

に向き合うこと自体が苦手であったり、何をどのよう
に考えればよいかわからなかったり、また答えのない問
いを考えることに対して、「意味がない」「役に立たない」、
と考えていたり・・・と理由は様々であると思います。私
自身、受験に必要な学力を身につけさせることと、普
段の授業で生徒に考えさせたいと思うことがうまく結び
つかないことに、悩みを抱えていました。特に現代文の授
業において、受験のための読解力や記述力を身につけ
せなければいけないと思う一方で、現代文の文章を通し
て、「社会とは何か」、「人間とは何か」などという問い
を生徒に投げかけ、思考力や想像力を伸ばしたいという
思いを強く持っていました。

私は、国語という教科には二つの側面があると考えて
います。一つ目は、情報収集力、読解力、論理的思考力
など、生徒が社会に出たときに必要な力を養うことです。
文章を読んで理解し、必要な情報を集めて記述する力な
どは、受験においても必要な力です。二つ目は、評論や
小説を通して、考えを深め、他者と意見を交換する中で、
新しい気づきを得ることです。二つ目の活動は、生徒が
社会に関心を持ち、視野を広げていくために欠かせない
ものであると考えています。今は知りたいことがスマー
トフォンですぐに検索できる時代です。長い時間をかけ
て一つの課題に取り組み、思考を深めていく機会も少な
くなっています。今回の研究では、生徒に「考える」こ
とに取り組ませ、他者と意見を交わすことで得られる新
しい発見やさらなる思考の深まりをを味わわせたいと思
います。ここでの「考える力」とは以下のようなことと
して捉えています。

・文章を的確に理解して情報を集め、それらの情報から
関係性を見つける力
・他者の考えと自分の考えを吟味したり検討したりする
ことを通して、自分で新しい考えや発想を生み出す力Ⅱ
創造的に考える力
(高等学校学習指導要領(平成三十年告示)解説「文学
国語」より)

私たちは、文章を読みながら頭の中でそれらを関連づ
け、全体像を把握しようとしています。関連づける、比較す
る、共通点を見つける、そしてそれらが支離滅裂なもの
ではなく、根拠があり、筋道が通っていて、つじつまが
あうものでなくてはなりません。文章を読み、情報を集
め、それらを根拠を明らかにしながら関連づけること、
この繰り返しで考え方のパターンを身につければ、どの
ような文章を読んでも、構造的に読んでいけるのではな
いかと思います。直接的な知識の暗記ではなく、思考の
枠組みを作ること、それも国語の役割であると思います。
しかし生徒に国語について聞くと、勉強の仕方がわか
らない、学習しても学力がなかなか上がらない、などと
言います。ここで六月と九月に行った学習および生活態
調査の結果を載せておきます。(参考資料①)

学習および生活実態調査 集計結果

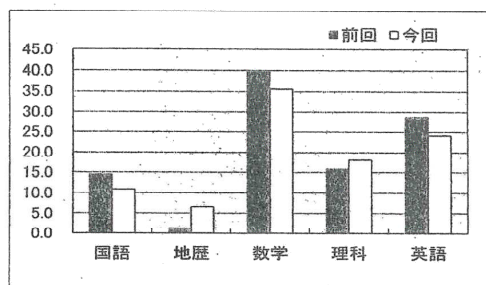
2年第1回（前回：左） 調査人数：321名（在籍323名）
2年第2回（今回：右） 調査人数：306名（在籍322名）

令和2年 6月 5日実施
令和2年 9月 11日実施

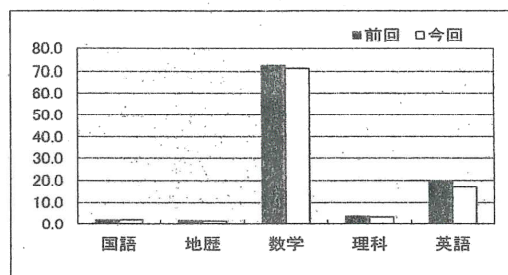
（グラフ縦軸の単位はすべて%です）

◎学習について聞きます。

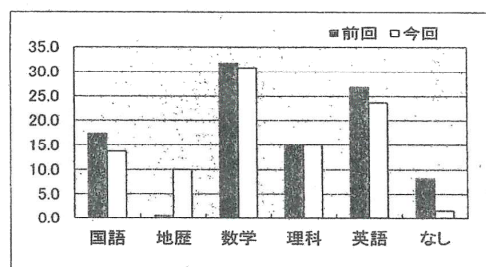
1. どの教科が最も難しいと感じていますか。



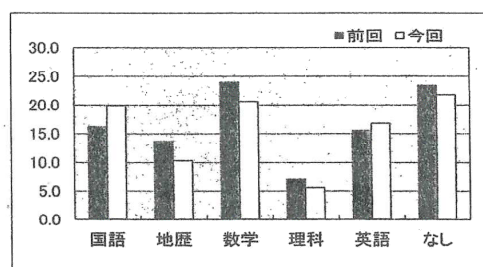
2. どの教科に最も時間をかけていますか。



3. 現在、最もつまづきを感じている教科は何ですか。



4. 最も得意な教科は何ですか。



3 実践

このように、生徒は国語につまづきを感じながらも、日常的な学習ができていない状態です。授業や課題など、学校にいる時間に、少しでも国語に触れてほしいと考えています。そこで、授業を利用して「考える力」の育成を図りたいと思います。

現在受け持っている高校二年生に対して、一年生の頃から「ジグソー法」を用いて授業を行ってきました。一年次は小説『羅生門』、評論『時間と自由の関係について』、二年次においては小説『山月記』を扱いました。ここでは小説『山月記』の実践を紹介します。

思考をつなげて考えていく授業実践として、『山月記』の主題を考えるとという活動を行いました。小説を扱った理由は、一つの言葉からでも幅広く想像でき、自由な発想がしやすいと考えたからです。突拍子もない意見が出るかもしれませんが、まずは文章を読んで自分なりの考えを持つことのおもしろさを味わってほしいと考えました。

方法としてはジグソー法を用いました。ジグソー法とはアクティブ・ラーニングの一つで、学習者同士が協力し合い、教え合いながら学習を進めていく学習法です。ジグソーパズルを解くように、複数のピース（複数の課題）をつなぎ合わせて、全体像（出された一つの課題）を浮かび上がらせていきます。ジグソー法は最後に情報と情報をつなげ、関連づける必要があります。生徒の発

想を大切にしながら、どのように情報をつないでいくかを観察しました。

ジグソー法には全部で三つのステップがあります。あの課題について、異なる角度から書かれた資料を読んだり、問いを考えたりする「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の三つから成っています。

まず学習者全体に課題（大きな問い）を与えました。「『山月記』の主題とは何か」です。学習者はまず与えられた課題について、各自で答えを考え、今の時点で思いつくことを書いておきます。その後学習者を四人一班に分け、一人一人にそれぞれの問い（問①～④）を与えます。ここで与える問いは、さきほどの課題「『山月記』の主題とは何か」を考える上でヒントとなるものです。課題（大きな問い）と問いは次のとおりです。

課題（大きな問い）

『山月記』の主題とは何か。

問

- ① 袁傚が『山月記』に登場する意味とは何か。
- ② 『山月記』に出てくる「月」が意味とは何か。
- ③ 「変身」を扱ったのはなぜか。
- ④ 李徴が虎になった理由は何か。

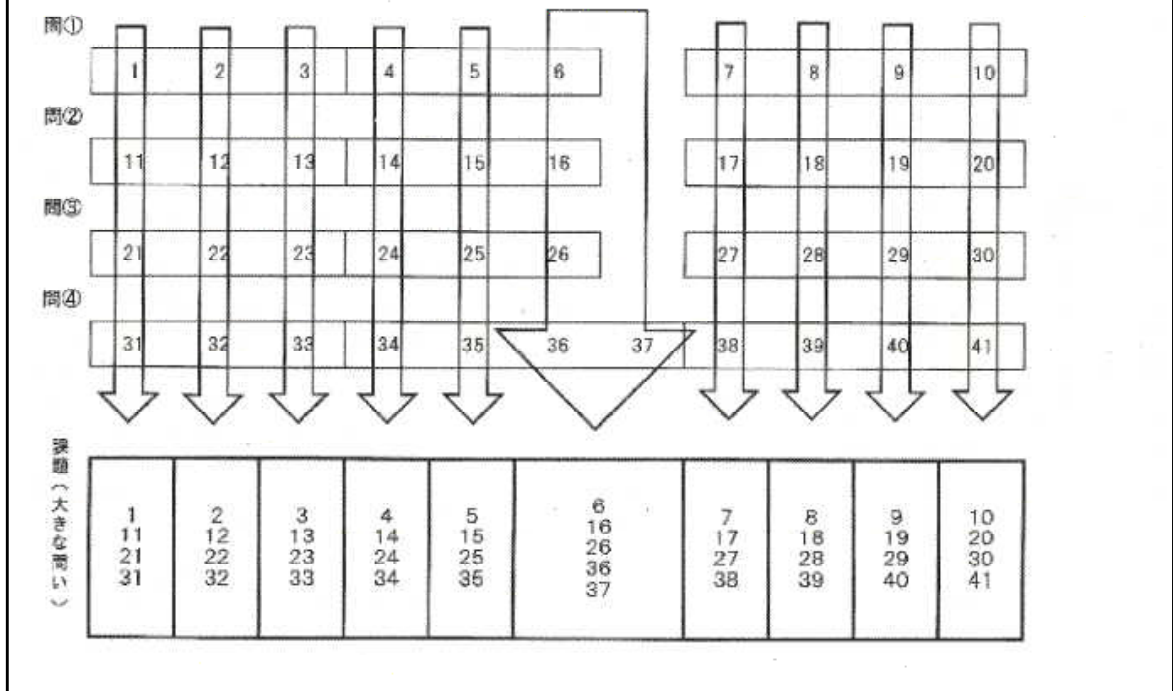
その後、①～④それぞれの課題を振り分けられた生徒は、同じ問いを持ったメンバーで集まります。ここで

うのが「エキスパート活動」です。「エキスパート」という名前のとおり、自分が持っている問いに対して詳しくなります。ここでの活動では、メンバー同士で意見交換をして考えを深め、さらに話し合いの過程などもメモをしておきます。また話し合ったことを、もとのグループに戻った際にわかりやすく伝える方法を考えます。

その後もとのグループに戻ります。ここで問①～④に対する意見をそれぞれが持ち寄ることになります。課題の答えを出すため、問いについて考察したことや話し合いの過程などを、各自がグループのメンバーにわかりやすく伝えます。すべての問いの答えが出たら、次はそれらをつなぎ合わせながら課題の答えを出すべく活動します。そして情報をつなげ、関連性を考えながら、中島敦が『山月記』において言いたかった主題を考えました。これがパズルのピースをつなげて全体像を見つけていく「ジグソー活動」です。

ジグソー法の短所として、指導者側が生徒の考えの方向性がある程度決めてしまうというものがあります。そこで今回の実践では、最初に「正しい答えはない。」ということを生徒に伝え、生徒ができるだけ自由に考えられるようにしました。ただ、「本文のここにこう書いてあるからこう考えた」という根拠は明らかにしてもらいます。「この表現から私はこう考えた」という思考を大切にしながら、生徒の活動を観察することになりました。生徒は各自持ち寄った問いの答えを話し合いながら、全体課題「『山月記』の主題とは何か」の答えを出すべく、それぞれの考えをすりあわせていきます。

ジグソー法 イメージ図



以下に、「エキスパート活動でまとめられた意見」、「ジグソー活動で出された生徒の意見」を載せておきます。

「エキスパート活動」でまとめられた意見

問① 袁儻が『山月記』に登場する意味とは何か。

● 袁儻と話すことで、李徴に人間の心を思い出させ、李徴自身の人生を振り返らせるため。

● 袁儻と李徴の人生や性格の違いを対比させて、李徴の人生の悲痛さを強調するため。

● 李徴が持つやりきれない思いや絶望感、心残りなどを吐き出させ、李徴の悔いを晴らし、虎になりきることができなかつた李徴が、人間の世に区切りをつける覚悟をつけさせるため。

問② 『山月記』に出てくる「月」が意味とは何か。

● 月Ⅱ 李徴の人間としての心。

● 月の光や色が薄くなるⅡ 李徴の人間の心が消える。

● 月が人間の心を表しているのなら、「月に向かって咆えた」とは、人の心への問いかけか？ 自分の心は誰も分かってくれないという訴えか？

● 「月に向かって咆えた」とは、「月Ⅱ 人間の心」を、李徴が心のよりどころとしているということか？

問③ 「変身」を扱ったのはなぜか。

● 李徴の醜い心が、人間の体では覆い隠すことができないほど大きくなり、人間の姿ではバランスがとれなくな

った。その欲望に満ちた心を隠すためにより欲望に忠実な獣に変化させられた。

●心身ともに変化させることで、李徴に自身に対する考え方や、過去の自分のあり方を振り返らせるため。

●「虎になる」・「ひどく酔っ払う」という意味がある。本文にも「酔わねばならぬ」という文がある。理性があるときより欲望に忠実？

問④李徴が虎になった理由は何か。

●「臆病な自尊心と尊大な羞恥心のため。」

「臆病な自尊心」とは自尊心が強いゆえ（自身の才能のなさを半ば認めているものの）、才能の程度が顕著に出ることを恐れる心。

「尊大な羞恥心」とは羞恥心が強いゆえ、自身の才能の低さが他者に露見するのを避け、恥をかくことがないよう、偉ぶった態度で人との交わりを逃避しようとする心。

●妻子より詩を大切にするような人間で、自分のことしか考えず、自分の気持ちと詩業の夢にひどく酔いおぼれたから。

●自分に才能があると思っけていても、心の隅には、自分には才能がないかもしれないという不安を共存させていたから。

ジグソー活動で出された生徒の意見

課題 『山月記』の主題とは何か。

問①袁慘が『山月記』に登場する意味とは何か。

袁慘との比較のため。（立場・人と虎・性格）また会話をすることで、気づいたり省みたりするため。（人生・虎になった理由など）

問②『山月記』に出てくる「月」が意味とは何か。

月⇨李徴の人間としての心
月の光や色が薄くなる⇨李徴の人間の心が消える

問③「変身」を扱ったのはなぜか。

李徴の醜い心の大きさが、人間の体一つでは覆い隠すことができないまでになり、その心を隠すためにより欲望に忠実な獣に変身する。「虎」とは獐犢で自分の欲望のために他を食らう存在。中島敦が生きた大正・昭和時代、革新的に文明が発展していく中、筆者は人々が醜い心の存在を忘れそうになるのを感じた（かもしれない）。

問④李徴が虎になった理由は何か。

「臆病な自尊心と尊大な羞恥心のため。」

「臆病な自尊心」とは自尊心が強いゆえ（自身の才能のなさを半ば認めているものの）、才能の程度が顕著に出ることを恐れる心。

「尊大な羞恥心」とは羞恥心が強いゆえ、自身の才能の低さが他者に露見するのを避け、恥をかくことがないよう、偉ぶった態度で人との交わりを逃避しようとする心。

「虎」とは「酔っ払い」のこと。自分の気持ちと夢（詩業）に酔っていた（から虎になった）。

問①～④から導き出された答え

『山月記』の主題

人が持つプライドや自意識の高さはあまりに大きくなりすぎるとその人自身を壊してしまう。他者と比較することによって生まれる劣等感や優越感など、深すぎる自意識は他者との壁を作ってしまう。こうした人間の弱い部分は自分では気づかず、李徴のように虎になってしまつてからやつと気づく。中島敦は人々に、人間とはあわれで孤独な存在であることを知らせるとともに、外部と関わり、自己の中に閉じこもらないことで、自己への固執をなくすことができる、ということをお伝えしようとした。



山月記

HRNO「氏名」

あなたが選んだ問いは

番号

①

問い

「山月記」に描く「意匠」とは何か。

考察メモ

①「山月記」の比較対象（立場・人と虎・性格）
 会話をすることで気づいた。省けたりするから
 ↓人生・虎に比べ、理由ない
 誰かにこの気持ちを伝えたいか？ ↓何で山月記？
 （詩）

「山月記」の理由

仲良かたから↓自分のことを理解してくれろ。
 （「山月記」を著したかたが、なぜか？）

出席番号

38

山月記

HRNO [] 氏名 []

あなたが選んだ問いは

番号

(4)

問い

李徴が虎になつた理由を整理しよう。

出席番号

28

考察メモ

李徴：プライドが高い。交流しない。

（この李徴の

（他人と一線を隔る詩作と詩業に絶望しに経緯）

④ 臆病な自尊心と ⑤ 尊大な羞恥心のため

① 自尊心が強いゆえ その自尊心を守ろうと 自分の才能の

なものを半ば認めるが 顕著に出ることを恐れる心（目を覆はる）

↓ 詩業に励み付けた

② 羞恥心の強さゆえ 自身の才能の程度（他者）が他者に

露見するのを避け 恥をかくことがないよう 偉ぶる態度

で 人との交わりを 逃避し 隠れようとする心

③ 臆病と尊大の入れ替わり

↓ 気持の葛藤・不安さ・不安定さ

虎……中国で暴入下ある人の例え / も、ほろい

↓ 自分のことしか考え付かた / 自分の気持と夢（詩業）に

酔っていた（虎になつた）

4 成果と課題

全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」を行った後、生徒に感想を書かせました。一読後の感想は『山月記』の授業を行う前に、予備知識がない状態で書かせていました。ここでは『山月記』一読後の生徒の感想と、ジグソー法で学習した後の生徒の感想を比較し、生徒の考えがどのように変化したかを分析したいと思います。

生徒 A

一読後の感想

李徴はことあるごとに自分をけなすような発言をしているので、とても自虐的な性格だと思った。



ジグソー法学習後の感想

李徴は、自分に才能があると思えず、けれども周りの非凡な才能の人たちと同等に扱われたくないため、人間との交流を避け、才能があると信じる矛盾を抱えている。

生徒 B

一読後の感想

話全体を通してみると李徴は大変人間らしいと感じた。例えば承認欲求、生活への焦り、詩業に絶望した様子など。物語の後半、李徴に妻子より詩業を優先したことへの後悔が芽生えたようだと思ったので、人間の心の死が近づくのは惜しいと感じた。

ジグソー法学習後の感想

はじめに読んだときは、李徴の人間味にしか視点が合わなかったが、物語中の様々な場面や出来事にも多くの解釈が生み出せるものが考えてみるほど出てきて、その解釈の共有は非常に興味深かった。『山月記』と中島敦との関わりがあるのではないかと推測していたが、他の班の発表を聞いて作者自身のこともよりよく知れてよかったと思う。個人的には、中島自身に迫る死（＝李徴の人間の心が失われること）と創作への執着心（＝詩業への執着心）のリンクをバックに描き、人の本質的な性質を書き記したような作品だと考えた。亡くなる間際まで書かずにはいられない方だったから。

生徒C

一読後の感想

自分にも羞恥心があって、人とあまり関わらないことがある。少しでいいから勇気がほしいと思った。

ジグソー法学習後の感想

『山月記』には人間の汚い心が描かれていると思う。自分にも下を見つけて安心する心や、人に勝って優越感を得る心がある気がする。これは李徴が持つプライドの高さや自意識の高さ、恥をかきたくないという羞恥心と似ていると思う。自分の中の「虎」はそれらなのかもしれない。

一読しただけの時の感想で多かったのは、本文の一部分に注目したものや、話の全体像が見えず、何を言いたい話かわからない、というものでした。自分で深みのあることを考えられる生徒は、一読後よりもさらに読みが深まったり、新たな気づきを得たりしたようです。また読むことが苦手な生徒も、一度自分で考え、その後各班の発表を聞くと、理解を深めることができたと感じていました。

感想の変化としては次の三点が挙げられます。

- ① 文章の一部分だけを取り上げた読み方ではなく、全体の話の流れ、また登場人物の心情や行動を読み取ることができている。
- ② 作品の描かれ方と作者自身との人生とのつながりを考えようとしている。
- ③ 自分の身への置き換え方が深まっている。

今回の研究は自分が担任をしている文系クラスで行いました。もともと本が好きだったり、考えることが好きだったりする生徒が多く、グループ活動もスムーズに行うことができました。しかし同時に、考えることが苦手な生徒もいました。生徒にとって一つの作品に長く向き合うということも初めてだったので、ジグソー法という活動に対して、彼らがどのように思っていたのかを聞きました。

ジグソー法に対する感想

●私は、『山月記』に出てくる「月」の意味とは何か、について考えていましたが、自分と違う考えを持つている人がいてとても面白かったです。「月がタイムリミットを意味している」という案がその中でも飛び抜けて面白かったです。私はただ「失っていく人間の心」であると思っていたのですが、その人は「戻ってくる虎の心」という意味で捉えていたのです。結果としては同じ事を意味していますが、反対の言葉で声に出してみると全く違うものに思えます。これまで本の内容をこんなにも深く掘り下げて想像で考えることはしたことがなかったのです、すごく面白かったです。案外私はこういうのが好きかもしれません。またこんな活動をしたいです。

●皆の意見を少しずつ混ぜて考えることができたと思う。「人」と「虎」と「見た目」と「中身」と「月の意味」をキーワードに、自分たちなりに深く楽しく『山月記』を味わえたと思う。

●深く考えられそうな部分や表現の仕方がたくさんあったので、この考え方を覚えておいて何かに活用できたらいいなと思う。

ほとんどの生徒がジグソー法を楽しんだようでした。生徒の様子を観察すると、絵や図を書いて自分の言いたいことを表現したり、他の人の意見から新たな気づきを得て意見を深めたりしているようでした。一方で次のような意見もあります。

●ジグソー法はいろんな話が聞けておもしろいけれど、自分の心の中で思っていることをうまく言葉にできなくてもどかしかったり、それこそ劣等感を感じたりしてしんどいところもあった。

生徒の中には、何も思い浮かばず、班員の話聞いているだけの者もありました。そうした生徒には、本文の中にヒントになりそうな部分を探すように声かけを行いました。今回は文系の中でも学力がある英数クラスでジグソー法を行いました。この活動を他のクラスでも行えるように、生徒に合わせて質問の難易度を変えたり、思考の流れを誘導できるようなワークシートを作ったりする必要がありますと感じました。

今回、生徒の発表や感想を見ていて気づいたことは、教訓を読み取ろうとする生徒が非常に多いということです。以下は『山月記』の主題として教訓を読み取った生徒の意見です。

●人間誰しもが持つている醜い心を自制できなくなる前に、人生を見つめ直し、態度を改めよ、という中島敦の教訓だと思った。

●李徴は独りよがりの考え方に捕らわれていていた。私は自分の考えだけで思いつめないようにしたいと思った。

教訓とは、人が次に失敗しないように、よりよく生きられるように、教え諭すことです。教訓には「失敗しないように」、「よりよく生きられるように」という目的が含まれています。言わば教訓は「役に立つ」ためにあるものです。生徒たちは文章を読んだとき、教訓を読み取ろうとする癖がついており、何かしらの結果を出してしまわなければいけないと考えているようでした。答えのない問いは、一度考えたから終わりというわけではなく、答えが出なければ出ないなりにずっと考え続けていくことに意味があると思います。そうした姿勢が、先行きが不透明な現代社会において必要なことであると考えます。生徒の中には以下のような感想もありました。

●文学作品なので、教訓を語っているように最初は思えたが、深く読んだり考察したりした後は、作者から「人間って難しいよね。どう思う？」と聞かれていたような気がした。作者の生き抜いた時代や文章の一節から考えていく面白さを大切にしたいと思う。

●他の班の発表を聞いて、多くの人が「李徴はもともと他人と交わり、切磋琢磨するべきだった」と考えていることや、「虎になったことは不幸である」と考えていることに疑問を感じた。他人と関わり合い、心をすりへらして生きることには本当にすばらしいのか。李徴は虎になることによって、人間であるがために感じてしまう自分の嫌な部分を忘れることができ、幸せになったのではないか。

同じ文章を読んでも、十人生徒がいれば十通りの考えが出ます。授業の中では、どのような考え方や発想も受け入れていく雰囲気づくりをしていきたいと考えます。ジグソー法の面白さは、答えのない問いを自由に考えるところにあると思います。他者と違う考え方を受け入れ、楽しみながら、自分の考えと他者の考えをすりあわせて新しいものを生み出していくこと、そうした雰囲気づくりを目指したいと思います。

5 最後に

二年間のジグソー法の活動を通して、考えることへの抵抗は少し減らすことができたような気がします。思考のためには土台となる知識や語彙も必要であり、それらがなければ思考することができないのも事実です。ただ闇雲に考えるのではなく、世の中の出来事や、今まで学習したことと関連付けて考えることができるようにさせたいと思います。そのためにも、高校三年間で基礎学力

の定着に力を入れ、自ら課題を見つけ解決策を考えられる生徒の育成に取り組んでいきたいと考えています。